



鶴見 久美子 議員

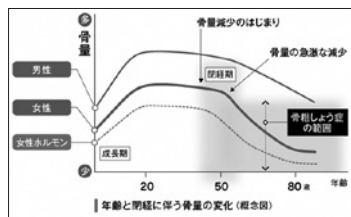


### 女性に多い骨粗しょう症について

**問** 骨粗しょう症とは、骨量が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気で、患者数も多くなっている。ちょっとのはずみで骨折しやすくなり、それにより歩行困難や介護が必要になってしまう。女性は40歳を過ぎたら検査を受けた方が良いとされる。①集団健診、医療機関での検査導入について②骨の健康チェックや症状チェック、食事や運動など予防法のチラシ配布

等について伺う。

**答（健康推進部長）** ①将来的な要介護状態の予防や医療費抑制につなげるため、今後、導入は必要と考えている。②多くの年齢層が日頃の生活習慣を見直し、骨の健康や骨粗しょう症予防を意識できるよう、市のホームページや広報誌等で周知していく。



年齢と閉経に伴う骨量の変化(概念図)  
公益財団法人骨粗鬆症財団HPより

### 子育て支援について

**問** 乳幼児を連れて外出する父

親が増えており、外出先でのトイレが問題視されている。公共施設の男性トイレへのベビーチェア・ベビーベッドを設置することについて、現状の課題と所見を伺う。

**答（財政部長）** 既存の施設では建物の構造や面積の関係から、全ての男性トイレへの設置は困難である。利用実態やニーズ等を踏まえ、親子での利用が多く見込まれる施設のトイレの環境改善に努めていく。

**答（福祉部長）** 設置は、子育て世代、特に育児に積極的に関わろうとする男性にとって、安心して外出できることにつながり、子育て支援に寄与するものと認識している。



高橋 秀彰 議員



### 高齢者および若年者等の消費者トラブル対策について

**問** 高齢者の消費者トラブルの未然防止には、消費生活センターと高齢者福祉関係機関等との情報連絡体制の整備が必要であり、被害の早期発見と、迅速な被害防止への対応ができる仕組みが必要である。また、若年者に対する消費者教育を効果的に行うには、実際の被害事例等を踏まえた実践的な消費者教育が大事であり、プッシュ型の周知により、若年者が自分事と捉えるよ

う促すことが、消費者被害の未然防止につながるものとする。今後、高齢者や若年者の消費者トラブル被害の未然防止の取り組みにより、安心して消費生活を営める環境整備が必要と考えるがどうか。



**答（市長）** 高齢の方、障がいのある方は、巧妙化、多様化する消費者トラブルのリスクが高まることが予想される。市では重層的支援体制整備事業において、庁内外の関係部署や民生委員等とも情報を共有し、対象者の支

援体制を構築している。消費者トラブルに対する地域見守りネットワークの在り方についても検討していきたい。若年者に対する消費者教育にも持続的に取り組み、ユーチューブ等も取り入れ啓発に努めていきたい。

**答（産業部長）** 消費生活センターや地域包括支援センター、成年後見地域連絡協議会など関係機関と情報共有、連携を図り高齢者の消費者トラブル防止に努め、ネットワークの在り方についても検討したい。

**答（教育部長）** 小中学生にとって身近な商品などを取り上げ、日々の消費行動がどのような消費者トラブルに結び付くのか、考えられる事例を授業に取り入れる工夫をするよう、各小中学校に助言している。